

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 ドリーム	代表者	理事長 金子 敏	法人・ 事業所 の特徴	平成23年3月に、旧越路町で初めての小規模多機能型居宅介護として、住み慣れた地域で在宅生活をしながら「小規模多機能型居宅介護」の特性である柔軟で臨機応変なサービスを利用できる。家庭的な雰囲気の中で、顔見知りの職員が自宅にも訪問し、使い慣れた環境の施設で通いやお泊りも実施している。 施設の環境として、農村住宅地にあり、事業所の畑もあるのでご利用者・職員とで野菜の収穫などに行きながら、周辺住民の方ともあいさつやお話し合える関係性を築いている。認知症のご利用者・ご家族から、在宅生活に不安を感じられる方も多く、併設の認知症対応型グループホームもあるので、随時相談にのっている。今までに老々世帯のご夫婦を小規模（1階）と、グループホーム（2階）とでご利用いただき、お互いの関係性が保てる支援を行なった。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 あおぞら館	管理者	松崎 あゆみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	1人	1人	1人	1人	人	3人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	今回の改善計画に対する次回の評価までの期間が短いので、管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を設けて次回の自己評価につなげる。	職員やご利用者に係る項目は会議やミーティングを活用して周知していた。自己評価は、8月までに各職員（パートを含む）が評価することができた。	自己評価は意見をまとめる期間も必要なので、時間がかかる。	前回の改善計画をもとに、今後も管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を設けて、職員間で日頃より意識していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	玄関から事務所のガラス扉にはなるべく貼紙はせず、来客が来てもすぐに対応できるようにする。事務所に職員がいない時は案内看板を設置して、事業所に声を掛けてもらいやすい環境をつくる。	掲示物はホワイトボードや目につきやすい壁に掲示した。案内看板をみて、用事がある方は中まで入って声を掛けてもらいやすくなった。	オレンジカフェを活用するならご近所だけでなく、近隣地域（小国など）にチラシを置いてみてはどうか。	今年度より始まったオレンジカフェの活動の様子なども玄関に掲示したり、看板等で来客者にもわかりやすく参加してもらいやすいように日時の予告等を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	施設職員で認知症サポーターのメイトもいるので、ご利用者やご家族、地域の住民の方を対象に認知症に関する研修を開催し、小規模多機能型居宅介護を知ってもらう機会を次年度の自己評価までに1回行う。	平成28年7月より事業所内で月に1回行われるオレンジカフェを活用して、医師から講義を行ってもらったり、地域の方から事業所内に来てもらえる機会が増えた。	公民館にオレンジカフェのチラシの掲示やもっと目につくように工夫してみてもどうか。	地域の行事などに参加し、施設だけでなく、職員も地域の方々と顔見知りの関係作りをしていながら、オレンジカフェや施設行事にも参加を促す。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>あおぞら新聞や行事のお知らせなどを回覧板で地域住民の方にも施設でどのような事が行われているかを配信していく。今後も民生委員を中心に地域の方と連携を密にするために担当者会議などにも参加してもらう。</p>	<p>地域の運動会や祭り、防災訓練などにも参加できた。ご利用者が関わる地域の民生委員の方とも連携をとって情報交換を行なった。</p>	<p>地域のクリーン作戦にも参加できればいいのではないかな。</p>	<p>前回の改善計画をもとに、あおぞら新聞や行事のお知らせなどを回覧板で地域住民の方にも施設でどのような事が行われているかを配信していく。今後もさらに民生委員との連携を密にする。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>事後報告やヒヤリハット報告の方法や困難事例検討などは行いながらも、地域の心配事などを話せる会議の内容と進め方や、ひとつの議題として話し合う場を管理者を中心に考えていく。</p>	<p>運営推進会議を活用して、事業所内での事後報告を行ったり、おジャパカフェを開催することで、地域の認知症のご家族にも事業所を知ってもらえる機会が増えたが、地域の心配事を聞く機会はなかった。</p>	<p>ご利用されている方の中で対応に困っている方の検討を行っていただければいいのではないかな。</p>	<p>今後も地域の活動や、心配事などを話す機会にしながらも、地域における施設の役割なども話し合う場にしていく。</p>
F. 事業所の防災・災害対策	<p>今後も避難訓練を5,10月に開催し、地域の方にも案内を出して参加してもらう。地域の防災訓練はまだ計画されていないが、開催時には常会長や回覧板より情報を収集し、参加していく。今後も、地域のなかにある施設としての役割として、災害時に安心して活用してもらえ事業所にしていきながらも、ただ支えてもらうだけでなく、役割やご家族、地域との連携も一緒に考えながら支援していく。</p>	<p>毎年避難訓練を行っているが、地域の方からの参加が決まってきた。火災訓練などは自主訓練でも行ないやすく何度も行ってきたが、災害に対する訓練が少ない。地域の防災訓練に施設長、管理者が参加できたが、職員の参加はできていない。</p>	<p>AEDがNPO法人ドリーム施設には配置してあることは、地域住民として安心している。発電機は、公民館に避難用具として置いてある。行方不明時の事も考えて、あらかじめご利用者の写真を用意しておいてはどうか。</p>	<p>いろいろな想定訓練を行って、避難訓練として5,10月に開催し、地域の方にも案内を出して参加してもらいながら、マニュアルから、臨機応変な対応や事例などの話し合いも行う。今後も回覧板より情報を収集し地域の防災訓練に職員も参加していく。</p>